

全組合員一丸となって3、4月政治決戦に突入しよう



動労千葉

83, 2, 28

No. 1277

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(公衆)〇四七二(22)七二〇七

2/24 オ6回支部代表者会議で意志一致

動労千葉は二月二四日、第六回支部代表者会議を開催し、検修下回り合理化反対闘争の中間総括を行うとともに、中江選挙闘争をはじめとする当面の取り組みについて次の通り確認しました。

検修下回り合理化反対闘争を中間総括

まず検修下回り合理化反対闘争について、臨調、国鉄当局の「緊急十一項目」攻撃であり、動労「本部」革マルの「働こう運動」の裏切りによって、きわめて困難な闘いでありながら、検修四支部を中心に一三〇〇名組合員の原則にたった粘り強い闘いで当局の追いつめ、木更津・成東駅派出所検体制を守りぬくなど一定の前進をかちとった、との総括が出されました。

中江・北原選挙闘争を軸に 八三春闘に勝利しよう

つづいて当面する取り組みが提案されました。中曾根は「戦後の総決算をかけた年にする」と公言し、「不沈空母」「改憲」発言を連発するなど、軍事大国化・改憲にむけた反動攻勢を強めています。国会は、防衛・武器技術供与・減税・人勸問題等、中曾根内閣の反動姿勢をめぐって対立・混乱を深めており、衆参同時選挙の可能性はきわめて増大しています。

八三春闘をめぐる情勢は、財政破綻・不況により体制的危機にあえぐ中曾根内閣が、行革・大増税・合理化・賃金抑制など、一切の犠牲を労働者人民に転嫁してきており、経団連稲山の昇給ゼロ発言をみるまでもなく、資本に忠誠を誓う同盟・JCにさえアメを与える余裕がないというなかで、きわめて厳しいものがあります。

二月十五、十六日の総評臨大は、中曾根内閣と対決し八三春闘の成果を政治決戦勝利に結びつけ、当面三月三十一日の官民統一ストライキを決定しました。四月、中旬の闘争は政局の動向をみて、戦術を決定するとしています。

こうした情勢の厳しさは、それだけ労働者総体の怒りを生み、爆発を不可避とするものであり、われわれは今春闘を三、四月政治決戦勝利のステップガンのもと、中江・北原選挙闘争を軸に全力をあげて闘います。また、八三春闘の中で家族組合の結成を実現します。

「心適」「入浴規制」等の攻撃を 職場の決起でうち破れ

政府・自民党は「国鉄再建監理委員会設置法案」の国会成立を狙う一方、国鉄当局は「緊急十一項目」強行実施による国鉄労働運動解体攻撃を強めています。

当局は検修下回りに一定の整理をつけ、早くも「貨物大合理化」「心理適性検査」「内達一号」をはじめとする攻撃を開始するとともに、「職場規律の厳正」をもってする時間内入浴規制の攻撃を加えています。

すでに国労門司では、五〇〇人へのぼる処分(賃金カット)をうけながら入浴闘争を継続しており、東京においても二月十六日以降、当局は入浴規制の攻撃を始めました。

動労「本部」革マルは、またしても当局の要求を受け入れて裏切り、国鉄労働者が血と汗でかちとってきた権利を売り渡しました。

われわれは、国労との共闘体制を確立し原則的に闘うことをとおして、当局の「職場規律の厳正」をはじめとする国鉄労働運動解体攻撃をうちやぶり、「国鉄再建法案」を粉碎します。

- 3・16労働者集会
- 3・27三里塚集会の成功かちとろう

反動中曾根は軍事大国化への最大の争点として三里塚に攻撃を加えてきており、一月冒頭からの「再共有地化」をもってする土地売り渡し策動は、反対同盟分裂策動であります。

また九月パイプライン完成以降、政府・自民党・国鉄当局による、本格的な動労千葉破壊攻撃は必至であり、組織的命運のかかった情勢といえます。われわれは、三里塚―国鉄決戦に勝利するため、「三・一六労働者集会」と「三・二七三里塚現地集会」の大成をかちとらねばなりません。

★当面するスケジュール

3・2	組合費公判	東京地裁	13時
3・3	第16回「6・12公判」	千葉地裁	13時
3・7	中江選対第5次行動		
3・11	第六回定期委員会	動力車会館	
3・14	第30回関川公判	千葉地裁	13時
3・16	第14回中野公判	千葉地裁	11時
3・16	3・16労働者集会	千葉市民会館	17時半
3・27	三里塚現地集会	三里塚現地	12時

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!